

学生企画

資源循環公社・アクションポート横浜

2018.9.6.thu.
10:00-17:00

南本牧ふ頭
金沢海の公園

コアメンバー

| 横浜国立大学 松田拓巳 中川真優 関戸一樹 有見 亜佐土 |
| 東京都市大学 浅見友里 | 明治学院大学 長浜宏海 |
| 東京理科大学 雨内大樹 | 横浜市立大学 夏目優樹 |

参加者の大学

| 横浜国立大学 | 東京都市大学 | フェリス女学院 | 横浜市立大学 |
| 東京理科大学 | 上智大学 | | 青山学院大学 | 明治学院大学 |

公益財団法人 横浜市資源循環公社
NPO 法人 アクションポート横浜
株式会社 金沢臨海サービス
公益財団法人 横浜市緑の協会



主催 エコな横浜を探す旅

エコツアー

横浜の海の今

Thank you for reading!



横浜の海の今を知ろう。



あなたは、私たちの生活がどれほど海に影響を及ぼしているか知っていますか？

ごみ処理技術が発展し、汚染された川や海を見かけることがなくなった現代では、私達の出したごみが環境にどのような影響を及ぼしているのかを考えることも少なくなっているのではないのでしょうか？

私たちは昨夏、皆さんに馴染みの深い「横浜の海」にクロージアアップして、横浜の海がどのような技術により守られ、そして今どのような問題を抱えているのかを伝えることを目的としたツアーを開催いたしました。



（公財）横浜市資源循環公社で当日のエコツアーの流れを説明し、横浜市の職員の方からのお話をいただきました。今回のエコツアーのキーワードとなるのは、「環境問題において、自然とどう折り合いをつけて妥協点を見つけていくか」です。これから見学に行く南本牧の解説と絡めて、環境問題についてとてもわかり易く説明していただきました。

南本牧最終処分場に行きました。

まず最初に、私たちは横浜市中区に位置する南本牧最終処理施設にバスで見学に行きました。南本牧最終処理施設は、市内の都市化が進み、内陸部に大規模な処理場の設置が困難になったことから海辺に設置された最終処分場です。

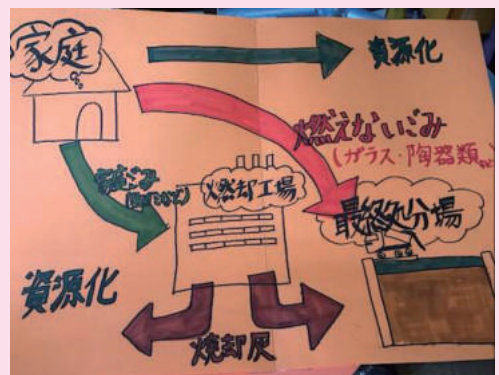


横浜市内で出された家庭ごみのゆくえ

「燃やすごみ」は、各自治体の焼却場で焼却処理をします。しかし、適切に処理をしても13～15%は灰や燃えカスとして残ってしまうのです。残った灰や燃えカスは最終処分場で埋め立てられます。

「燃えないごみ」は直接、最終処分場に運ばれ、体積を減らすために破碎処理をして、埋め立てられます。ビン・カン・ペットボトルなどの資源化できるものはリサイクルされます。

最終処分場は、焼却残渣や資源化もできなくなったごみの最終的な行き場所ということになります。



最終処分場の役割

最終処分場は処理できなくなったごみの最終的な行き場所です。それでは、それらのごみは海にそのまま捨てられてしまうのでしょうか。南本牧最終処分場を管理しておられる（公財）横浜市資源循環公社の岸本さんにバスに同行していただき、最終処分場の役割と今後の課題について伺いました。

Q：私達にとって、ごみの埋立地といえば、海にそのままゴミを捨てているイメージがあります。実際、海へのごみの埋め立ては環境に悪影響はないのでしょうか？

A：ごみをそのまま海に埋め立てているというイメージは間違いです。埋立施設は四方が厚い壁で二重に囲まれています。埋立ごみには有害な化学物質を含んだものもあり、それらが雨水により溶け出してくるのを防ぐために、何段階もの水処理を経て無害化されてから放流しています。

Q：南本牧ふ頭最終処分場が埋立ごみで満杯になったらどうするのでしょうか？

A：南本牧最終処理施設の残余期間は、あと50年分です。50年後にはまた新たに、横浜の海に埋め立て地を作らなければなりません。これには、膨大な費用や時間、労働力が必要となるだけでなく、周辺住民の理解を得る必要もあり、用地を確保するのもまた困難なのです。現時点で、次の埋め立て地をどこにするのかは具体的に決まっています。

私たちにできること

私たちが生活する上で、ごみの排出は避けることができません。現段階ではごみの完全な資源化は困難であり、埋立という方法に頼っています。

南本牧最終処分場の残余期間を延ばすことが現時点で示唆される一番の解決策と言えるでしょう。そのために私たちができることは「ごみを減らすこと」「ごみを正しく分別すること」この二つなのです。

資源循環局処分地管理課

ご意見お問い合わせ

✉ sj-syobunchi@city.yokohama.jp

☎ 045-671-2560

📍 神奈川県横浜市中区南本牧

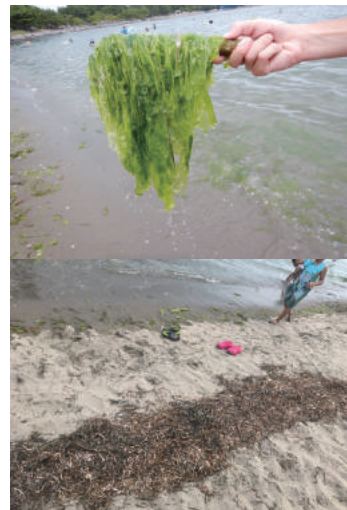
ブルーカーボンとは



ブルーカーボンとは海に生息している海藻などの生き物によって取り込まれる炭素のことを言います。(陸の植物によって取り込まれる炭素はグリーンカーボンと呼ばれます。)

皆さんは、二酸化炭素の吸収源といえば、森林などの陸上生態系を思い浮かべるかもしれませんが、実は最近の研究から、地球上の生物が吸収する二酸化炭素のうち、半分強は海洋が吸収していることが明らかにされました。さらに、海洋へ貯留される炭素の半分以上は、海の公園のようなごく浅い沿岸部の、アマモなどの生態系が吸収していることがわかったのです。

森林伐採や砂漠化、森林火災などの影響によって森林の生態系が危険にさらされて問題になっていることは広く認知されています。しかし、アマモなどの海洋生態系が、温暖化の原因となる二酸化炭素を減らすためにとても重要であることや、それらが森林と同様、埋立などの生態系破壊によって、危機に直面していることはあまり知られていません。ブルーカーボンの機能を社会に広く周知することで、海を守る動機づけにつながるだけでなく、森、川、海の生態系を包括的に保全し、さらなる温暖化の緩和・防止策を推進することができるのです。



海の植物が少なすぎると生き物たちの住む場所は無くなります。しかし、海の植物が多すぎても人々は海を楽しめなくなります。人と自然の共生のために、自然の保護と快適な生活にどう折り合いをつけていけば良いのか、「海の公園」は今、難しい問題に直面しています。

座間さんの講義を受けた後、私たちはアマモとアオサを見に、海辺へ向かいました。想像していたほどアマモとアオサは多くありませんでした。どうやら昨夏、アマモとアオサは約半数以下になってしまったそうなのです。原因は不明なままですが、今度はアマモとアオサが少なすぎて生き物の住むところが無くなってしまおうという問題が出てきました。



人と自然の共生をめざす「海の公園」

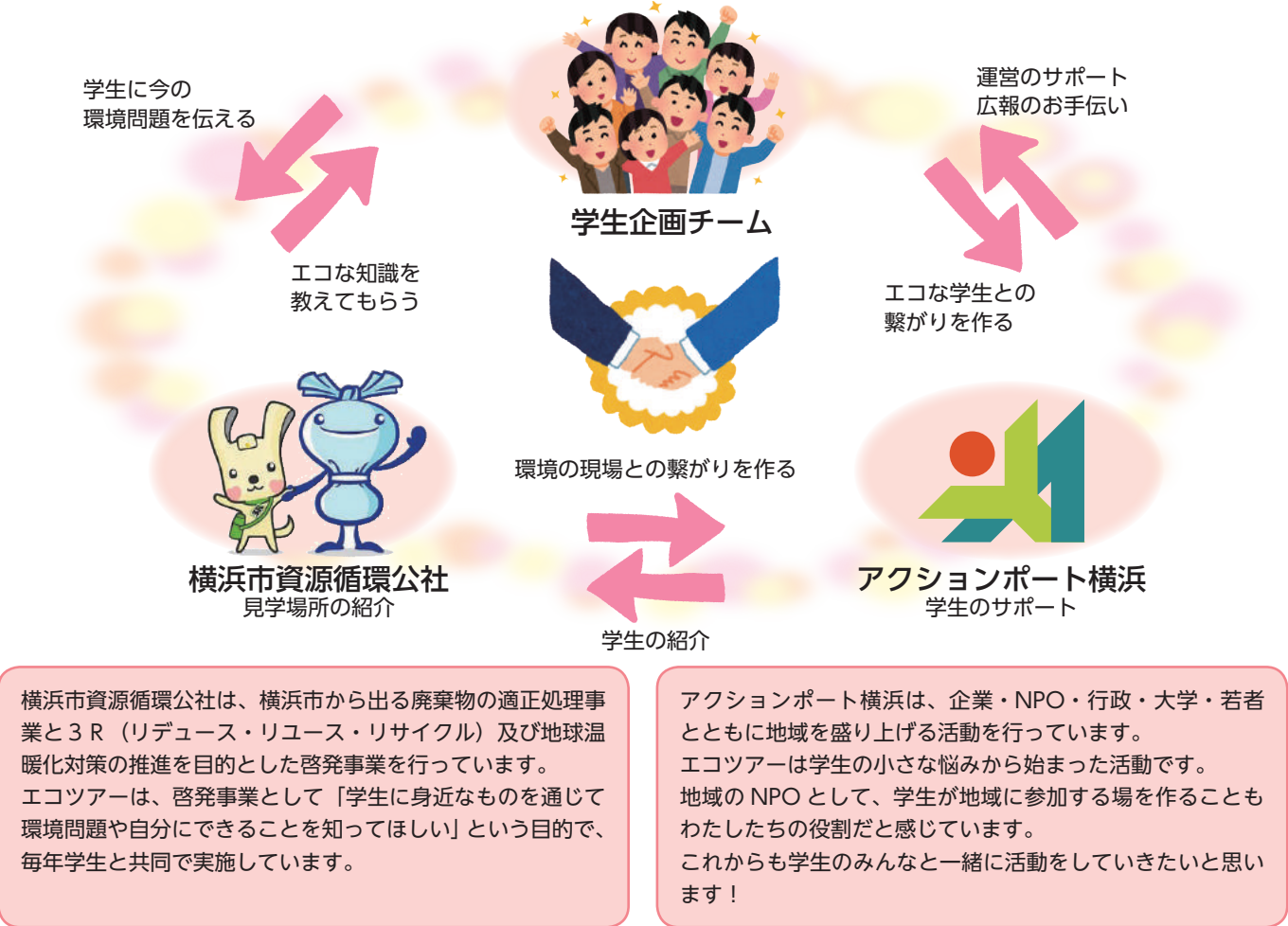
南本牧最終処分場を後にした私達は、横浜市金沢区に位置する「海の公園」を訪れました。

ここは、横浜市内で唯一海水浴場をもつ公園です。春先には、潮干狩りを楽しむことができ、夏の海水浴シーズンとともに、多くの人で賑わいます。市からこの公園の管理を委託されている公益財団法人横浜市民どりの協会と、株式会社金沢臨海サーブスは、豊かな海の自然を守り、より多くの人が海の公園で楽しめるよう、日々活動なさっています。今回は金沢臨海サーブスの座間さんに講義をお願いして、「海の公園の自然環境の今」についてお話していただきました。海の公園は昨今、アマモとアオサという海藻が大量発生し、浜辺に打ち上げられて問題になっています。

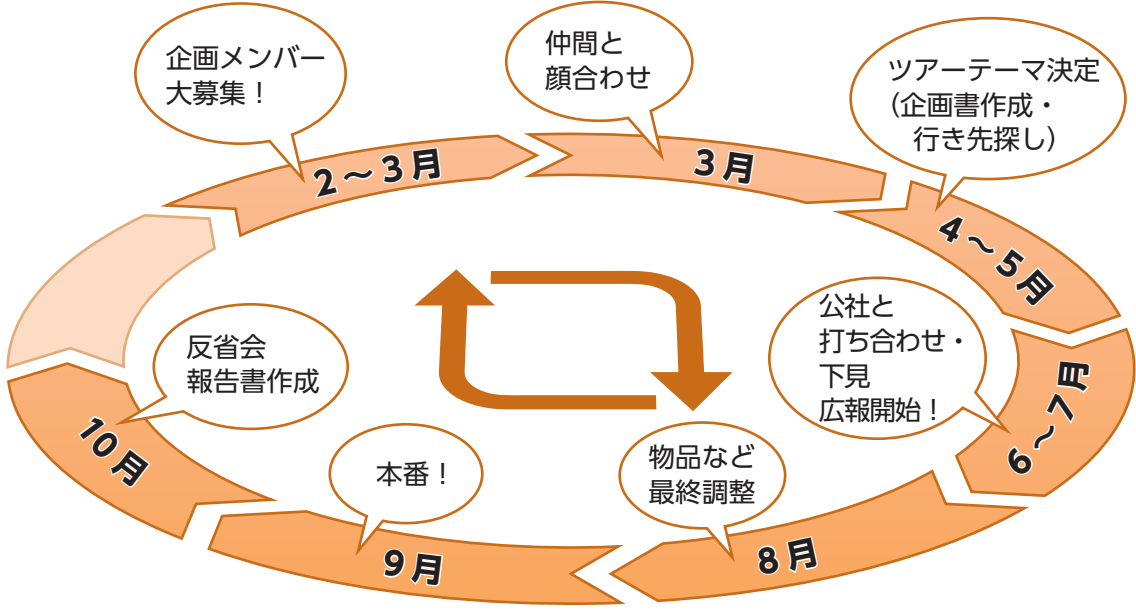
もともとアマモとアオサは、小さな海の生き物たちが外敵から身を隠す揺りかごととして、2003年に人の手によって植えられたものでした。それが増えすぎたために、海水浴をしている際にくっついてきて気持ちが悪く、海岸に打ち上げられたアマモとアオサが臭いなどと海を利用する方々からの苦情が出てきてしまい問題になっているのです。そこで、私達はこのアマモを有効活用する方法はないか、ワークシヨップ形式で話し合いを行いました。その中では、「畑の肥料にする」「化粧品に使う」「家畜の飼料にする」などの案が挙げられました。座間さん曰く、ブルーカーボンを畑の肥料として利用するというのが有効かつ現実的な利用方法だそうです。



エコツアーの素敵な関係



企画ができるまで



企画メンバー全員が、ツアーを企画するのは初めてで苦労が絶えませんでした。最後まで終えると全員が良い経験をさせていただいた、楽しかった！と感じていました。ここでの出会いはこれからも大切にしたいと思います。



ツアー参加者の皆様、この度は私共の企画したツアーにご参加していただき誠にありがとうございました。私たちは、ごみ処理場で処分しきれなかったごみを海に葬ることで、快適な生活を保っています。海は私たちの生活の中で無くてはならないものです。そんな「豊穡の海」が現在様々な問題に直面しています。海を守るために私たちにできることは何か、今回のエコツアーを通して参加者の皆様がこのことを考える契機となったら、私たちも嬉しく感じます。また、今回の企画にご協力していただきました皆様に心からの感謝を申し上げます。企画の立て方もわからない私共にご協力して頂いた皆様のおかげでツアーを無事に成功させることができました。最後に、ツアーをとともに作り上げたエコツアーのメンバーのみんな、本当にお疲れ様でした！

おわりに

公益財団法人 横浜市資源循環公社

当公社は、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用及び適正処理並びに地球温暖化対策に関する諸事業を行うことにより、市民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るとともに、環境負荷の少ない持続可能な循環型社会及び低炭素社会の形成に寄与することを目的としています。

NPO 法人 アクションポート横浜

アクションポート横浜は、若者と NPO をつないでまちを盛り上げる NPO です。「まちにたくさんの主人公を！」を合言葉に、まちにたくさんのコミュニケーションとコラボレーションを生み出し、新しい価値を創り出すための活動を推進します。



本文中に登場する方々を含め、多くの
方々のお力添えなしには、この企画は成
り立ちませんでした。
ここに、エコツアー学生一同、感謝の意
を表明いたします。

学生企画エコツアー ——横浜の海の今

2018 年 9 月 6 日 企画当日

2019 年 3 月 31 日 初版発行

発行 公益財団法人 横浜市資源循環公社、NPO 法人 アクションポート横浜、
学生企画エコツアー学生チーム

FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生する CO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。

